

# 活動や体験を大切に自然に親しむ子の育成

—— 第1学年「公園で遊ぼう」の単元を通して ——

## 目 次

I	研究主題設定の理由	63
II	研究仮設	63
III	研究内容	63
1	生活科の基礎的研究	63
(1)	新教育過程からみた授業改革の基本的視点	63
(2)	幼稚園教育と生活科	64
(3)	内容の分析(第一学年)	65
(4)	学習指導の進め方	66
①	教師はどこにいるか	66
②	児童は活動しているか	66
③	どこで活動しているか	67
(5)	生活科の学習過程	68
(6)	生活科の評価	69
IV	授業実践	75
1	授業設計	75
2	単元活動分析表(第1学年)	76
3	単元の活動展開計画	77
4	本時の展開	79
5	活動意欲を高める手立てと物	83
V	研究のまとめと今後の課題	85
1	研究のまとめ	85
2	今後の課題	85

浦添市立当山小学校教諭

下 門 節 子

# 活動や体験を大切に自然に親しむ子の育成

## ——第1学年「公園で遊ぼう」の単元を通して——

浦添市立当山小学校教諭 下 門 節 子

### I テーマ設定の理由

今回の学習指導要領の改訂によって「生活科」という新教科が誕生した。この生活科の特色の一つに「地域との深いかかわり」が挙げられるがそれは、児童の生活圏である身近な地域を学習の場・対象としながら学校、家庭、地域の人々の理解と協力のもとに地域と触れ合う活動をすすめることを基本としているからである。では、本校の児童の生活圏をみると、公共の施設としての広場を主にした浦添大公園や遊具を主とした嘉数高台公園等、活動や体験のできる場や自然に触れる場に恵まれている。さらに、学校生活での低学年児童の特徴をみると「終わります」のチャイムと同時に外遊びへとパッと散っていき遊具や砂場で思い思いに遊ぶ子ども達、雨の日でも教室の両窓辺が「てるてる坊主」のカーテンになる等、晴天を願う気持ちは、とにかく外遊びが大好きな子ども達と言える。

上記の実情から「遊び」活動が具体的な活動や体験としてどのように構成しているか第1学年の内容③や「内容選択の視点」からせまってみたい。

### II 研究仮説

生活科の学習において社会や自然とのかかわりのできる活動や体験の場を組織すれば自立への基礎となる生活上必要な習慣や技能を身につける子が育つであろう。

### III 研究内容

#### (1) 新教育過程からみた授業改革の基本的視点

今回の改訂では、個性を生かす教育・社会の変化に対応できる能力の育成、自ら学ぶ意欲の育成・人間としての生き方の教育・文化や伝統を尊重する態度の育成などを重視して改善が行われている。また、これまでの学校教育の反省として、学習指導の質的変換を図ろうとしている。

つまり、児童が自ら学び考える教育への転換である。

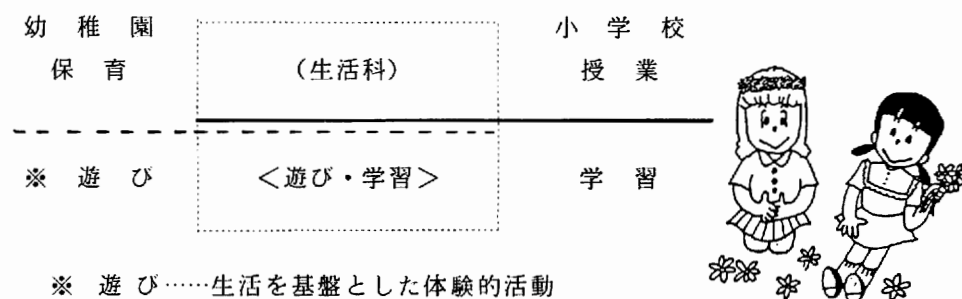
この新教育過程を授業改革という点で考えると、次の4つの基本的視点を挙げることができる。

- ① 基礎基本の指導の工夫と個性を生かす教育の推進
- ② 社会の変化に主体的に対応できる能力の育成
- ③ 内発的な学習意欲の育成
- ④ 学習指導への教師の関わり方

これからの社会の変化に主体的に対応して生きていく資質を育てるためには、授業が変わることが強くもとめられる。特にこれまでみられた教師中心型の授業から子ども中心の授業へと変わることが大切である。教師は児童一人ひとりの成長の過程を見守り、それぞれの能力や適性などを引き出して育てるよき援助者であるという指導観と児童は本来様々な可能性を内に秘め、よりよく生きたい向上したいと願っている存在であると実感をしっかりと持ち、よき援助者としての力量を高めていくことが求められている。また、学習指導にあっては、児童一人ひとりの特性を学習や生活の状況の観察、学習記録や諸調査などによる客観的な理解とともに、日々の学校生活の中で共に学び、共に悲しむといった心の触れ合いを通して共感的な理解を深めるようにすることが大切である。

## (2) 幼稚園教育と生活科

生活科新設の背景となった幼稚園と小学校のつながりという点から生活科をとらえると、生活科は、次の図の重なり（のりしろ）の部分として考えられる。



幼稚園では、遊びを通しての指導を中心として、すべてのねらいが達成されるように考えられている。登園してからの幼稚園での幼児の生活は遊びを中心として展開されているのである。そこでは、勿論「～なさい」「～してはいけません」「早くなさい」「○○ちゃん何してるの」というような強制的、威圧的な先生の言葉は聞こえてこない。子どもたちは、落ち着いた良い環境の中で生き生きと活動し（遊び）、友達とかかわりあっているのである。

ところが、小学校へ入学すると、チャイムで仕切られた45分間の1時間単位の授業、給食、休み時間というようなリズムで毎日過ごすようになる。1年生から6年生までの発達年齢の相当違う大集団の中で、いろいろな環境の大きな変化に戸惑うのは当然である。

こうした中で、スムーズに小学校生活が送れるように夢中になって遊ぶことを通して学ぶ幼稚園教育と遊ぶことも学習ととらえた低学年生活科教育とのつながりを十分ふまえることが必要になってくる。

		幼稚園	小学校生活科
中心活動		遊びを通しての指導	具体的な活動や体験を通しての指導
ね ら い	心情	興味・関心をもち、楽しく活動し、喜び・充実感を味わう。	社会・自然とのかかわりに関心を持つ。
	意欲	積極的にかかわりあい、活動しようとする。	知的好奇心をもち、問題解決しようとする。
	態度	友達とのかかわり。	自分への気づき、集団とのかかわり
教師のかかわり		幼児の行動を見守る適切な援助	児童が主役 援助・助言

(3) 生活科学習内容の分析 (1年)

	内 容	身に付けたい力
(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の施設の様子……………</li> <li>・先生などの学校生活を支えている人々のこと……………</li> <li>・友達のこと……………</li> <li>・(学校において楽しく)……………</li> <li>・通学路の様子……………</li> <li>・安全な登下校……………</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ 分かる</li> <li>生活や遊びが → できる</li> <li>→ 調べる</li> <li>→ できる</li> </ul>
(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活を支えている家族の仕事……………</li> <li>・家族の一員として自分でしなければならないこと……………</li> <li>・(家庭における)自分の役割……………</li> <li>・健康に(気を付けて)……………</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ 分かる</li> <li>→ (積極的に)果たす</li> <li>→ (生活)できる</li> </ul>
(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所の公園などの公共施設……………</li> <li>・(近所の公園などの公共施設)……………</li> <li>・身近な自然……………</li> <li>・季節の変化……………</li> <li>・(季節の変化)……………</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ (みんなのものであること)分かる</li> <li>→ (大切に利用すること)できる</li> <li>→ 観察する</li> <li>→ 気付く</li> <li>→ (合わせて生活)できる</li> </ul>
(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土・砂など……………</li> <li>・草花や木の実など(身近にあるもので)……………</li> <li>・みんなで……………</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ 遊ぶ</li> <li>→ (遊びにつかうものを)作る</li> <li>→ (遊びを工夫すること)できる</li> </ul>
(5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物……………</li> <li>・植物……………</li> <li>・(動植物も自分たちとおなじように)……………</li> <li>・生き物へ……………</li> <li>・(生き物を)……………</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ 飼う</li> <li>→ 育てる</li> <li>→ (生命をもっていること)気付く</li> <li>→ (親しみ)持つ</li> <li>→ (大切にすること)できる</li> </ul>
(6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学してから自分でできるようになったこと……………</li> <li>・日常生活での自分の役割が増えたこと……………</li> <li>・学校や家庭において……………</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ 分かる</li> <li>→ (意欲的に生活)できる</li> </ul>

#### (4) 学習指導の進め方

##### ① 教師はどこにいるか

知識や経験の豊かな教師が、それを児童に教え授けるのが授業であると考えるとき、授業の中心は教師となり、一時間中、黒板を背にしてクラスの全体に話しかける。このような教師主導の授業は、児童一人一人のよさを生かした授業となりにくい。したがって、教師中心の一斉指導は、一人一人の児童が自ら意欲的に活動することを大切にする生活科ではなじまないと考える。

生活科の授業にあっては、援助という言葉がよく使われる。このことは、生活科授業づくりの核心をついている。指導という言葉にかえて援助というとき、教師は何も指導してはいけないというのではなく、援助も指導の一形態としてとらえることである。援助とは、文字通り、児童一人一人の学習活動を助け支えることであり、そのことは指導すること以上に教師の専門的な力量が求められることなのである。

どの児童にもそれぞれのやりたいことがあり、それに熱中する生活科においては、児童の活動の場は多様であるため、教師は、いつ、どこで、どのような援助をするのかという教師の姿勢や役割が問われている。

したがって、児童一人一人が個性を発揮して、伸び伸びと活動できるように、教師は学習環境を整え、児童の活動を見守り、援助していくことが大切である。

##### ② 児童は活動しているか

生活科は、座学のイメージにはなじまない。教師に向かって並び、座り、読んだり、質問に答えたりするような頭だけで学ぶ教科ではない。児童が体全体で学ぶ活動が展開されているかどうか、この教科の本質とかがわかって重要なことである。

生活科は、具体的な活動や体験を通して学ぶ教科である。その具体的な活動や体験とは、例えば、見る、調べる、探す、育てる、作る、遊ぶなどの学習活動である。また、見たり、調べたり、育てたりした学習対象のようすや自分の考えを、言葉、絵、動作、劇化等で表現する学習活動である。児童が活動しているかということは、このような学習活動が可能となっているかということにはかならない。すなわち、体全体で学ぶ活動や体験こそが生活科に求められているのである。

ところで、これらの体で学ぶ活動や体験にあっては、トラブルやハプニングはつきものである。物の貸し借りやグループ活動で言い争いになったり、けんかやつかみ合いが始まる。また、大切に育てていた植物が枯れたり、昆虫などの生き物が死んだりする。楽しみにしていた町の探検が雨で中止となりがっかりする。

生活科の教科目標の中に、「……その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ……」とあるのは、このようなトラブルやハプニングの中に、多くの学ぶものがあることを示したものである。活動や体験の過程において、必要に応じて身に付ける習慣や技能は、よりよく生きる生活の知恵にはかならない。生活科で大切にしたいのは、単なる知識ではなく、生活に生きる知恵を身に付けさせることなのである。

しかし、活動や体験の生活科であるといっても、ただ活動していればそれでよいというのではない。どの児童にとっても価値ある活動が求められるのである。この趣旨に沿って活動しているかということは、生活科授業のチェックポイントである。

③ どこで活動しているか

通常の授業は、教室の中でなされるのがほとんどである。生活科にあっても、教室での授業があることはいうまでもないが、教室の中だけにとどまらないということである。

生活科は身近な環境の学習である。児童が生活している身近な社会や自然が学習の場であり、学習の対象となる。すなわち、児童の生活圏に学ぶ生活科においては、教室はもとより、校内、校外まで学習の場や対象が広がるのである。

校外に出て、身近な人や施設、また、草花や生き物などの環境に学ぶということは、大きな意味をもっている。先生は担任だけではなく、農家のおじさんが、「畑の先生」であり、近所のおばさんが「昔の遊びの先生」なのである。その中で、実物に触れて実感として分かること、自然の中で豊かな感性を育てることを目指しているのである。

また、校外学習にあっては、安全にかかわる事項について十分に配慮することが大切である。交通事故はいうまでもなく、危険な場所での事故などが起こらないように、事前、事中における十分な安全への検討と対策が必要である。

④ 児童理解の観点

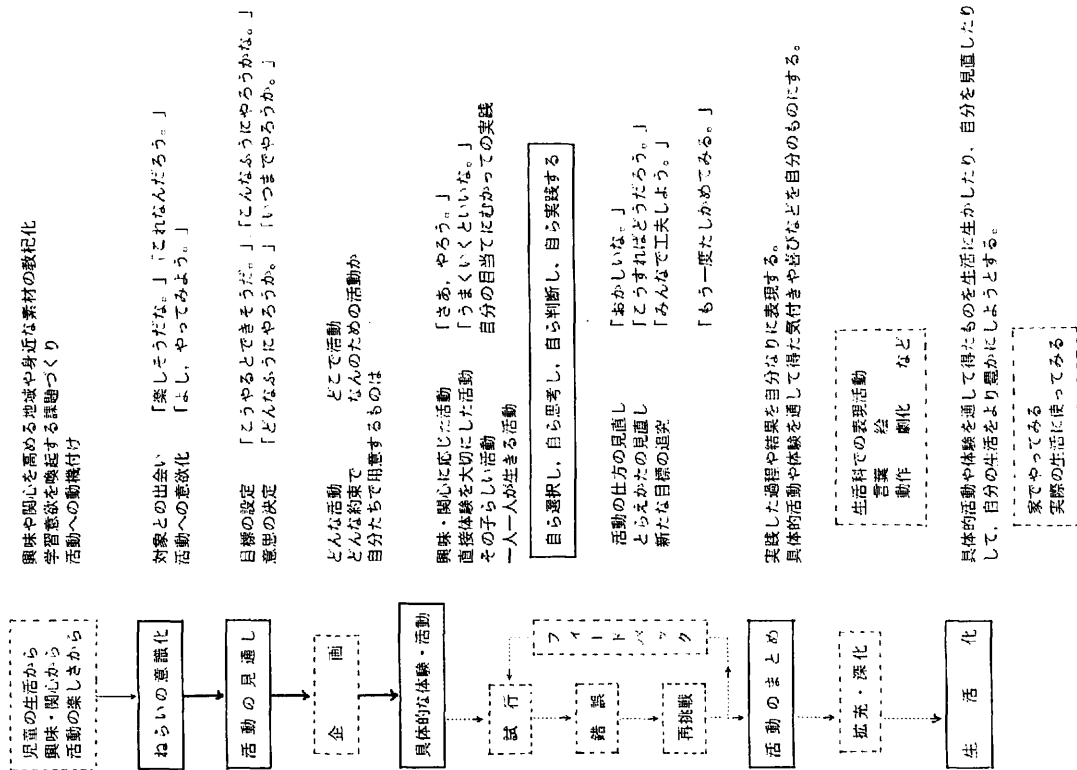
水戸市立常盤小学校の評価設計

観 点	具 体 的 評 価 方 法	機 会
① 事前の活動体験	アンケート、対話・面接等	活 動 前
② 事前の興味・関心	日常の会話、行動の観察、日記等	活 動 前
③ 事前の習慣・技能	行動観察、アンケート等	活 動 前
④ 協力・協調 (個性発揮・役割分担)	活動観察、表情の観察、表現(日記・見たことしたことノート・いいもの見つけたカード・発見新聞)等	活 動 中 活 動 後
⑤ 意欲・積極性 (自己主張)	活動観察、表現(記述・発表)、したことカード等	活 動 中 活 動 後
⑥ 根気・持続性・継続性 (没入・没頭)	活動観察、表現(発表)、友人の意見・感想、したことカード	活 動 中 活 動 後
⑦ 自分への気づき (感動・満足・成就感・存在感・達成感・自信等)	活動観察、発言・発表、つぶやきの記録、表現(日記・見たことしたことノート)、したことカード	活 動 中 活 動 後
⑧ 働きかけ (社会・自然へ)、創意・工夫・創造等	活動観察、つぶやきの記録、発言、表現(発表・日記・みたことしたことノート)、したことカード	活 動 中 活 動 後
⑨ 日常生活に生かし役立てる態度 (習慣・技能)	他教科・他領域の学習時の観察、遊びの観察、対話、日記、家庭へのアンケート等	活 動 後

⑤ 遊びにおける教師の援助のあり方について

- ア. 子ども自身が自分の遊びに没頭できる環境をつくること。
- イ. 主体的に関われるように空間と時間を保障する。
- ウ. 認める、励ますなどの肯定的な関わり。
- エ. 仲間との橋渡しをし、発想の交流をはかる。
- オ. イメージを明確にしてやる。
- カ. 仲間に入る。  
(子どものレベルで遊ぶ)
- キ. 遊びに誘う。
- ク. 遊びの仕方を教える。

### (5) 生活科の指導過程



### 実際の授業展開にあたって留意すること

1. 弾力的に時間の運用を図ること。  
具体的な活動や体験が重視されるので、学習が総合的になり、他教科、他領域とのかわりが深くなる。従って、合科的指導を従来以上に考えていく必要がある。  
特に、活動の性質や量によっては、従来のように一単位時間45分の固定された授業展開でなく、場合によっては、30分、45分、60分、90分というように、弾力的な時間の使い方を工夫することが大切である。
2. 日程時間割りの弾力的な運用を図ること。  
生活科は、週3時間である。この3時間をどう位置付けるかが問題になる。特に生活科の場合、転写活動のように断続的活動が要求されるもの、同質活動のように連続的活動が要求されるもの、野外活動のように天候に左右されるもの、季節の特性により時期を見計らう必要のあるものなどいろいろある。それだけに、それぞれの活動内容に合わせて、きめ細かく活動時間の計画を立てる必要がある。  
単元の内容に合わせて柔軟に対応できる余地を残す必要がある。
3. たっぷりと活動にひたることのできる時間を確保すること。  
生活科の中心課題は、児童がいかに活動に没頭するかの一点にかかっている。自分の選択した、自分の課題にむかって、自分のもっている全エネルギーを投入できるような体験や活動の時間をたっぷりと保証したい。  
そのためには、導入やまとめに時間をかけすぎないことが重要である。生活科の場台、導入がいきなり活動に入ったり、まとめが早く授業が終了することも考えられる。
4. 準備や後かたづけも学習活動のうち。  
生活科では「具体的な活動や体験を通して、基本的な生活習慣や技能を身に付ける」こともおこなっている。活動のための準備や後かたづけを学習活動の中に明確に位置付けておくことが大切である。
5. 生活科の特質をふまえた実地的な時間割りをつくる。  
① 子どもたちの活動が中心となるので、一単位時間で終わらないことが多い。そこで、一単位時間と二単位時間に分ける。  
② 週の初めは、変更や行事が多いので避ける。  
③ 活動後のまとめや、天候などに変更もあるため、週末は避ける。  
④ 生活科での表現活動を重視する意味から、生活科の後に国語、図工の時間を位置づける。  
⑤ 活動後の整理、活動前の準備の観点から、生活科の実施日の間隔をあける。  
⑥ 学年2クラス以上の場合は、学年で同時に活動できる口を設けておくことが便利である。

【時間割り例】

	月	火	水	木	金	土
1						
2						
3		生	生	生	図	
4		活	活	活	工	
5		課	課	課	課	

## (6) 生活科の評価

### ① 評価の特色

#### (1) 具体的な活動や体験の広がりや深まりを評価すること

生活科は具体的な活動や体験を通して、総合的な学習活動を展開する。そして、その活動の内容は、個人により、グループによって多様である。このような学習活動の展開にあっては、教師は事前に、何を、どのように取り上げて、児童自身の主体的な活動を引き出していくようにするか、その方向や手順などについて、具体的に検討しておくことが大切である。このことが不十分であれば、活動はしたが、求められる児童の姿とはどのようなものであり、どのような学習が成立したのかが明確につかめないということになる。

生活科の学習指導にあっては、児童自身の主体的な活動を重視し、児童の考え方や行動がどのように深まり、広がり、その中で児童が何を学んだかを評価することが求められる。そのためには、学習活動の展開の方向や手順などについての事前の検討が極めて大切である。

#### (2) 一人一人に即した評価が特に求められること

生活科は自分とのかかわりを重視する教科である。一人一人の児童が、身近な環境とのかかわり、そして自分自身について学習する。

このことは、生活科の評価にあっては、一人一人の児童に即すること、すなわち、その子なりのものがどのように発揮されているかを重視することが求められるのである。その子なりの意欲や興味・関心、気付きや行動等が、どのように発揮され行われているかを評価するとともに、それを指導に生かす工夫が大切なのである。

そして、生活科にあっては、活動や体験の過程そのものが特に重視されるのである。一人一人の児童が、それぞれの目標を目指して、どのように取り組み、学習を進めているかという学習の過程そのものが大切である。学習活動の過程における評価を重視することによって、一人一人の児童を、より深く、より広く伸ばす評価と指導の在り方を求めることができるのである。

#### (3) 実践的な態度の評価を重視すること

生活科は、つまるところ児童がよき生活者になることを目指している。即ち、児童が日常生活の中でどのように考え、工夫し、行動するようになったかということを重視する。生活科の各学年の目標及び内容を「……することができるようにする」と表現しているのは、このことと密接にかかわっている。このことは、生活科にあっては、意欲や関心・態度、行動の評価が重視されなければならないことを意味している。意識面や実践的な態度の評価を重視することである。

このような評価にあっては、1単位時間、あるいは、1単元という短期間の過程の評価ではなく、長時間にわたって、その変容をとらえることが必要である。生活科にあっては、一人一人の児童の学習の過程が大切にされ、長期にわたってその変容をとらえることが求められるのである。

以上のような生活科の教科としての特質と評価の特色を理解することが大切である。評価方法については、生活科が求めている児童像の実現を図る評価でなければならない。



## ② 生活科の観点別学習状況の評価

### ア 生活科の評価の観点

- 指導要録が求める観点学習状況の評価にあって大切なことは、何が、どの程度実現されたかということである。その「何が」ということは、目標とかかかって明確にされるものであり、このことから、評価は目標の裏がえしといわれている。

新指導要録の「観点別学習状況」の欄において、生活科の評価の観点とその趣旨は、以下のように示されている。

生活科の「観点別学習状況」 [指導要録] (平成3年3月) (表1)

教科	観 点	趣 旨
生 活	生活への関心・意欲・態度	身近な環境や自分自身に関心をもち、進んでそれらとかかわり、楽しく学習や生活をしようとする。
	活動や体験についての思考・表現	具体的な活動や体験について、自分なりに考えたり、工夫したりして、それを素直に表現する。
	身近な環境や自分についての気付き	具体的な活動や体験をしながら、自分と身近な社会や自然とのかかわり及び自分自身のよさなどに気付いている。

#### (ア) 「関心・意欲・態度」

生活の知恵を身に付け、自立への基礎を養う生活科にあっては、とりわけ重要な観点である。生活科は、あれこれの知識を覚えればよい教科ではない。生活の中に生きて働く力を育てることを目指しているのである。身近な環境への積極的な働きかけとともに、学習したことを自らの生活に生かす実践的な態度を大切にしたいのである。

この関心・意欲・態度は、他の各教科においても重要な事柄であり、各教科の評価の観点の最初に置かれたことは、新しい学力観の特色を示すものとして、注目したいことである。関心・意欲・態度は、情意的側面と深くかかっている。そのため、この観点の評価は、ペーパーテストや短期間の評価にはなじまない。継続的に、長期にわたって見取ることが求められる。

#### (イ) 「思考・表現」

活動における思考の広がりや深まりに注目するのが思考・表現である。生活科では、具体的な活動や体験をとおして学習が展開されるが、ただ単に活動していればよいということにはならない。

活動の中でいろいろ考えたり、工夫したりして、よりよいものを求めていくことを大切にしたいのである。

また、生活科では、作ったり、遊んだりなど、自己を表現することを重視する。受容ではなく、自らを積極的に表出することである。その子なりのすなおな表現がなされているか、また、そのための技能はどうかなど、生活科の重要なチェックポイントである。

#### (ウ) 「気付き」

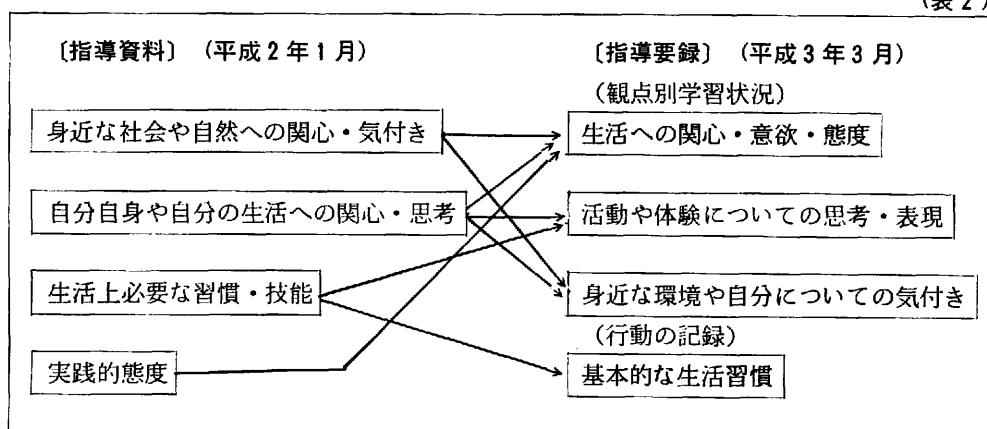
この観点は生活科だけのものである。他の教科では「知識・理解」であるが、それに近いものであると言える。このことは、生活科には知識・理解が欠落しているということではな

く、気付きという観点として設けられているということである。

生活科にあっては、教えられて受動的に分かるということではなく、自ら主体的に環境とかわり、その中で気付き、分かることを大切にしたいということである。すなわち、主体的な分かり方こそ、気付きなのである。生活科では、身近な社会や自然とかかわる中で、主体的に社会認識や自然認識への芽を育てたいのである。また自分自身への気付きを大切にしているのである。

以上、生活科の評価の観点を示したが、生活科の指導資料『指導計画の作成と学習指導』（平成2年1月文部省）の中では、評価の観点として4観点を示している。その4観点が指導要録では3観点到組み替えられている。その関連は、以下の通りである。なお、「生活上必要な習慣・技能」については、指導要録の行動の記録欄にある「基本的な生活習慣」の項目において主としてチェックするものとして、観点別学習状況にあっては特に設定されていない。

(表2)



#### イ 観点別学習状況の評価の進め方

指導要領の観点別学習状況の評価においては、小学校学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現の状況を観点ごとに評価し、A、B、Cの記号によって記入する。

この場合、

- A：「十分満足できると判断されるもの」
- B：「おおむね満足できると判断されるもの」
- C：「努力を要すると判断されるもの」

である。

絶対評価については、客観的な評価基準の設定が困難であって、主観的な評価になりがちであり、評価の信頼性に問題があるという指摘がある。したがって、各教科の観点別学習状況の評価に際しては、学年や単元ごとに具体的な評価基準を設定するような工夫が必要となる。このため、各教科の評価の観点をかみくだいた付属資料として「観点別学習状況のための参考資料」が示されている。（次ページ参照 表3）

各学校においては、これを参考にしながら、「おおむね満足できる」評価基準を設定し、それに照らして「十分満足できる」状況や「努力を要する」状況を判断するのが適当であると考えている。

観点	学年	東 1 学 年	第 2 学 年
生活への関心・意欲・態度		身近な社会や自然及び自分自身に関心をもち、進んでそれらとかかわり、楽しく学習したり、意欲的に遊びや手伝いなどをしたりしようとする。	身近な社会や自然及び自分自身に関心をもち、進んでそれらとかかわり、楽しく学習したり、意欲的に遊びや手伝いなどをしたりしようとする。
活動や体験についての思考・表現		調べたり、育てたり、作ったりするなどの活動や学校や家庭などにおける自分の生活について、自分なりに考えたり、工夫したりして、それをすなおに表現する。	調べたり、育てたり、作ったりするなどの活動や学校や家庭などにおける自分の生活について、自分なりに考えたり、工夫したりして、それをすなおに表現する。
身近な環境や自分についての気付き		具体的な活動や体験をしながら、 <u>学校生活や家庭生活</u> 、身近な自然や動植物、 <u>入学してからの自分の生活</u> などの様子に気付いている。	具体的な活動や体験をしながら、 <u>日常生活や公共物の利用</u> 、身近な自然や動植物、 <u>生まれてからの自分の生活</u> などの様子に気付いている。

参考資料には、生活科の三つの評価の観点が、第1学年、第2学年に分けて具体化して示されている。それによると、「生活への関心・意欲・態度」と「活動や体験についての思考・判断」の二つの観点は、両学年において変わらない。しかし、「身近な環境や自分についての気付き」の観点にあっては、第1学年と第2学年では異なっている。――の部分。

このことは、評価規準の設定にあっては、学年別にこだわることなく、柔軟であってよいことを示唆している。すなわち、生活科の学年目標は、第1学年及び第2学年として共通の目標が示されているが、内容は学年別に示されており、このような生活科の特色を踏まえ、適切な評価規準を設定することが求められるのである。

例えば、動植物を育てるという活動は、1年生でも2年生でも取り上げられるが、そのとき評価規準は同じでよいかどうかは、児童の実態や単元のねらいなどに即して判断すべきである。一般的に言えば、2年生にはそれなりの深まりや広まりが求められていることは、いうまでもないことである。

ところで、評価規準の設定というとき、参考資料に示されている学年別の程度では、極めて概括的であり、評価規準としての機能を果たしえない。少なくとも、単元レベルまで具体化して示すことが必要である。

以下、具体例を提示してみる。

小単元「校舎の中を探検しよう」

- ・小単元の目標 ― 学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく遊びや生活ができるようにする。

<評価規準>

- 関心・意欲・態度 —— ◦ 学校内を進んで探検しようとしている。
- 思考・表現 —— ◦ あいさつができたり、必要なことをいったりすることができる。
- 気 付 き —— ◦ 校舎内の施設・設備の様子やいろいろな人々がいることが分かる。

小単元「落ち葉や木の実で遊ぼう」

- 小単元の目標 集めてきた落ち葉や木の実を使って、工夫してかざりやおもちゃを作ったり、遊んだりすることができるようにする。

<評価規準>

- 関心・意欲・態度 —— ◦ 自分の作りたいおもちゃを決めて、楽しく作ったり遊んだりしている。
- 思考・表現 —— ◦ その子なりの発想や工夫をしている。  
◦ 安全に気を付けて道具を使い、後片付けができる。
- 気 付 き —— ◦ 落ち葉や木の実の形や色などの特徴に気付いている。

指導要録が求めている観点別学習状況の評価にあっては、このような具体的な評価規準を設定することが不可欠である。規準が明確でなくては、実現状況の評価はできないからである。

なお、観点別の評価にあって、どのような方法でチェックするかは、重要な事柄である。関心・意欲・態度や思考・表現などを重視する生活科においては、多様な評価方法を活用することが求められる。

ウ 生活科の評価の方法

生活科にあっては、単元全体や、複数単元を通して、また長期的見通しに立って、継続的に児童の意欲や活動とそれに伴った変容をとらえていくことが大切である。このような考え方から、ペーパーテストを中心とした評価はなじまないといえる。

生活科の評価方法としては、ペーパーテストによる知識や理解を中心とした評価より、チェックリスト・児童との話し合い・作品などの多様な評価方法を取り入れていくことが大切である。さらに、行動の記録や授業の分析・自己評価や相互評価なども、学習のねらいや内容に応じて適切に、有効に活用していくことが大切となる。

(ア) 生活科の評価方法を考える前提

- 個に即した評価を大切にすること（児童一人一人のよさ・もち味・可能性などに目をむけた個人内評価）
- 学習の結果よりも、活動の過程における児童の取り組みを重視していくこと（次の活動や指導に生かすことを大切にする）。
- 児童に可能な自己評価を取り入れ、児童一人一人に自分への気付きを促すこと。  
ねらいに応じて多様な評価を取り入れ、評価の方法を組み合わせ併用すること。
- 1単位時間で完結する評価だけではなく、学期や1年間にわたる長期的な評価を大切にしていること。

これらをふまえ、次に示す評価方法は、生活科にとって有効な方法となり得る。

— 評価方法例 —

行動観察	◦ 児童の身体表出（態度や行動、つぶやき）の観察・チェック	・ 観察記録 ・ チェックリスト
発言分析	◦ 学習時間中の児童の発言を、評価規準によって見取る。	・ 授業記録
作品分析	◦ 子どもの絵や作文、ノート、メモ、感想文、地図、年表などを評価規準によって見取る。	・ ノートや作品
面接	◦ 発言内容や授業中の行動など、面接して聞きとる。	・ ノートや作品
自己評価	◦ 自分自身の反省評価、自分を乗り越えていこうとする努力。	・ 反省カード
相互評価	◦ 友達相互の反省評価。自分とは異なった意見や態度をとる友達への共感的理解を見取る。	・ 反省カード ・ 行動観察記録
家庭連絡	◦ 学校で勉強したことが家庭でどのような表れ方をしているか、学習の準備の様子など。	・ 家庭からの連絡
日常観察	◦ 授業以外の学校生活・社会生活の様子を見取り。	・ 児童の日記 ・ ききこみ

(1) 評価方法の具体例

⑦ 行動観察による具体例

児童の行動や作品などの学習の成立を確かめる時、直接、評価一覧表に記入していくより補助記録用紙に記入した方がよい。簡潔で使いやすい工夫が必要である。

例えば、座席表に評価観点を明示しておき、児童の言動を観察しながら教師のコメントを記入していく。これらの記録を手がかりとして、評価一覧表に小単元毎に記入していく方法が評価しやすいのではないかと考える。

(例) 補助的記録等 (チェックカード)

- ◎ 「十分満足できると判断されるもの」  
○ 「おおむね満足できると判断されるもの」  
△ 「努力を要すると判断されるもの」

大単元名 (公園で遊ぼう)	小単元名 (初夏の公園で遊ぼう)	第○時	○月○日
評 価 規 準			評 価 方 法
① 関心・意欲・態度—(遊びの計画を話し合い遊具等で遊ぶことができる。)			{行動観察と発言分析}
② 思考表現 —————(楽しかった遊びや見つけた虫、草花、木等の自慢を絵や文に書くことができる。)			{作品分析と自己評価}
③ 気付き —————(初夏の草木、花、虫等の色や体感で暑さに気付いている。)			{行動観察}
④ 基本的な生活習慣—(遊びが終わってから手洗いやうがいなどができる。)			{行動観察}
①と④について評価する			
A 男		B 男	
①	④	①	④
C 子		D 子	
①	④	①	④

## IV 授業実践

### 1. 授業設計

平成4年6月19日（金）1～4校時  
 浦添市立 当山小学校 第1学年170人  
 指導者 下門 節子

(1) 単元名 初夏の公園で遊ぼう（13時間）

(2) 単元の目標

- 公共の施設を使って遊ぶことができる。
- 公園の草花や樹木、虫などを観察したり触れたりして自然に親しむことができる。

(3) 単元設定の理由

本校の学区域には浦添大公園、嘉数高台公園等、比較的身近に遊び場があるにもかかわらず遊び調査の結果、ほとんどの子供が家の中での遊びや友だちの家等と家の周囲での遊びが多い。

「初夏の公園で遊ぼう」の単元では、浦添大公園を学習の場として取り上げ、子供たちをその中で思う存分遊ばせながら、自然とのかかわりを深めるとともに、公共施設の利用の仕方を身につけさせたいと考える。

また、多くの樹木や草花あるいはその辺りに生息する虫などと触れ合ったり、そこで見つけた自然のものを使って遊ぶものを作ったり（秋の活動）を通して自然と遊ぶ楽しさを味わわせ、自然への親しみを増すことができると考え「秋の公園で遊ぼう」単元へとつなげたい。

(4) 授業の仮説

浦添大公園を学習の場として組織することによって、友だちと一緒に遊んだり公園の自然を観察することで、近所の公園は、公共施設としてみんなのものであることが分かり、それらを大切に利用する子が育つであろう。

(5) 学習活動での児童評価表（生活科の児童像を考慮した）

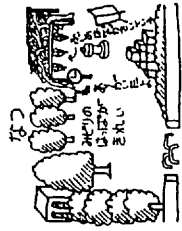
評価の視点	具体的評価項目	児童氏名						
集団生活の一員として	一緒に遊ぶ、勉強する							
	話しあいに参加する							
	児童間で取り決めた役割を果たす							
	集団活動上のきまりを守る							
自分のことは自分でする	その日の気候や活動に合った身仕度をする							
	安全な通行、安全への配慮をする							
	遊具を自作する							
	使った後の後始末をする							
意志の伝達と受容	挨拶をする、お礼や謝罪をきちんとする							
	わかりやすく案内図を描く							
	気付いたことを絵や文にする							
	自分の考えを発表する、質問する							
国境への積極的な働きかけ	友達の発表を聞く							
	自然の様子や変化に気付き、関心を示す							
	植物や動物に積極的に働きかける							
	利用者や働く人と積極的に交わる							
	まわりに気を遣う（国境を乱暴に扱わない、人の迷惑にならない等）							
	公共物を大事に扱う							
その他、児童の良い面、成長についての気付き								

(6) 指導計画（13時間）

千葉市教育センター紀要より

2. 単元活動分析表 (第1学年)

項目	自然	自然	社会	情意	態度	表現	遊び
内容	<p>生き物を採集する。遊ぶ、育てる、観察し、特徴に気づく。季節の変化に気づく。</p>	<p>自分の生活を考え、春夏秋冬に合わせた暮らし。自分の成長を支えてくれた人に感謝の気持ち。</p>	<p>楽しく生活でき、まきまきを守り、安全な登下校。仲間と活動する。意欲的に生活する。</p>	<p>興味、関心 ・追求心(意欲、自発心、持続力、集中力、創意工夫) ・成就感</p>	<p>生活に必要な習慣や技能 ・能力</p>	<p>話す ・絵に書く ・身体表現 ・劇化 ・造形</p>	<p>ごっこ遊びをする。 ・と一緒に遊ぶ ・で遊ぶ</p>
単元名	<p>学校の近くで遊ぶ(3) ・浦添大公園について発表する。 ・公園に行くときの注意点についての話し合い。 ・公園に向かう。 ・路上にある草花や樹木に目を向ける。 ・樹木に来る為に目を向ける。</p>	<p>近くの公園で楽しく遊ぶ(3) ・信号機のある横断歩道を渡る。 ・ガードレールや歩道橋を利用する。 ・大きな運動にむける。 ・電話ボックスに目をむける。 ・幼稚園の先生や知っている人に挨拶をする。</p>	<p>楽しく生活でき、まきまきを守り、安全な登下校。仲間と活動する。意欲的に生活する。</p>	<p>進んで意見を言う ・最後まで話をきく ・興味を持って話を聞く ・興味を持っていろいろなものを見つける。 ・自分から草花や樹木、建物などを見つめる。</p>	<p>話す、聞く。 ・発表する。 ・計画する。 ・さがす。 ・知らせる。 ・安全に気を付ける。</p>	<p>話す ・絵に書く ・身体表現 ・劇化 ・造形</p>	
公園で遊ぶ	<p>公園の中で自由楽しく遊ぶ(4) ・公園内の施設を見る。 ・すべり台で友達と遊ぶ。 ・かくれんぼをする。 ・手わたりで友達と遊ぶ。 ・公園に来ている人と話をする。</p>	<p>公園の中で自由楽しく遊ぶ(4) ・公園内の施設を見る。 ・すべり台で友達と遊ぶ。 ・かくれんぼをする。 ・手わたりで友達と遊ぶ。 ・公園に来ている人と話をする。</p>	<p>進んで見たこと、したことを表す。 ・工夫して知らせる。</p>	<p>進んで見たこと、したことを発表する。 ・絵にかく。 ・粘土で作る。 ・粘土で遊ぶ。 ・鬼ごっこをして遊ぶ</p>	<p>見る、さがす。 ・調べる、作る。 ・工夫する。 ・協力する。 ・聞くマナー。 ・後片付けをする。</p>	<p>草花を使ってつくる。 ・砂を使って作る。 ・言葉で発表する。 ・絵にかく。 ・粘土で作る。 ・粘土で遊ぶ。 ・鬼ごっこをして遊ぶ</p>	<p>草花を使って遊ぶ。 ・砂で遊ぶ。 ・虫で遊ぶ。 ・遊具で遊ぶ。 ・鬼ごっこをして遊ぶ</p>
13	<p>公園の絵地図をつくる(3) ・公園の絵地図に施設・樹木・草花を記入する。 ・どんな人がどんなことをしていたかを記入する。 ・どんなことに気を付けて施設を利用しているか発表する。 公園で遊んだ場所や見つけたものを記録する。 虫探しをした場所や遊んだ様子を記録する。 砂遊びをした場所や遊んだ様子について話し合う。(1) 公園での過ごしかたについて話し合う。 公園でしてはいけないこと。</p>	<p>公園の絵地図をつくる(3) ・公園の絵地図に施設・樹木・草花を記入する。 ・どんな人がどんなことをしていたかを記入する。 ・どんなことに気を付けて施設を利用しているか発表する。 公園で遊んだ場所や見つけたものを記録する。 虫探しをした場所や遊んだ様子を記録する。 砂遊びをした場所や遊んだ様子について話し合う。(1) 公園での過ごしかたについて話し合う。 公園でしてはいけないこと。</p>	<p>進んで見たこと、したことを発表する。 ・絵にかく。 ・粘土で作る。 ・粘土で遊ぶ。 ・鬼ごっこをして遊ぶ</p>	<p>進んで見たこと、したことを発表する。 ・絵にかく。 ・粘土で作る。 ・粘土で遊ぶ。 ・鬼ごっこをして遊ぶ</p>	<p>見る、聞く。 ・調べる。 ・工夫する。 ・相談する。 ・発表する。 ・後片付けをする。</p>	<p>絵に書く。 ・粘土で作る。 ・テープ・サートに貼る。 ・ロール紙に書く。 ・劇化する。</p>	<p>ごっこ遊びをする。 ・と一緒に遊ぶ ・で遊ぶ</p>

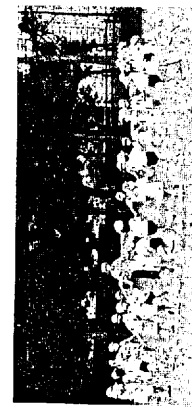
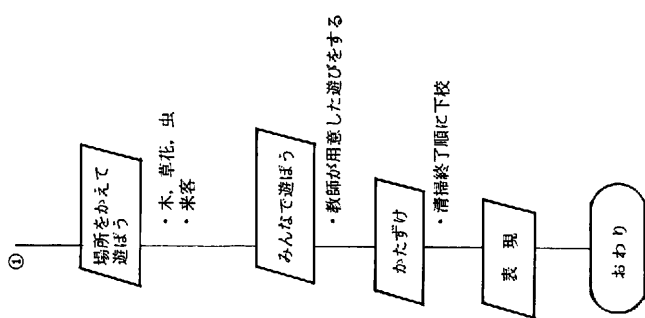


3 単元の活動展開計画 総指導時数（初夏13 秋12）

具体的な視点	教師の援助、準備
<p>＜初夏＞</p> <p>(1) 近くの公園で楽しく遊ぶ            (2) 公園に行って遊んだことや楽しかったことを絵や文で表したり発表したりする            (3) 公園の絵地図を作る            (4) 公園での過ごし方について話し合う</p> <p>＜秋＞</p> <p>(1) 公園で自由に楽しく遊んだり観察したりする            (2) 公園の自然の様子や施設などについて6～7月のころのの違いをまとめる</p>	<p>ことや、気付いたことなどを絵や文で表現する。</p> <p>・楽しかったことを発表する。            ・思い出を絵や文などに表す。            ・みんなの前で公園でのできごころを絵や文を使いながら発表する。</p> <p>・公園の絵地図を作る。</p> <p>・公園にあったものを発表する。            ・公園にきていた人たちについて発表する。            ・草花や虫や鳥などを絵にかく。</p> <p>・今後の公園での過ごし方について話し合う。</p> <p>・公園でしてはいけないこと            ・利用の仕方</p>
<p>（ ） 活動の流れ（○の番号は、内容選取上の10の視点）</p> <p>＜初夏＞ 第1次 めあてに気付いて、意識化する活動。</p> <p>・学校の近くで楽しく遊ぶ計画をたてる。            ・蒲高大公園について、どこにあってどんな遊びができるか、話し合う。            ・公園に行くとき、どんなことに気を付けたらいいか、話し合う。</p> <p>・公園に行く途中で、いるいるなものを見つける。            ・タンポポなどの草花を見つける。            ・歩道やガードレールに目を向ける。            ・自立つ建物に目を向ける。            意識化して、実践する活動。</p> <p>第2次 意識化して、実践する活動。</p> <p>・公園で自由に楽しく遊ぶ            ・かくれんぼをする。            ・砂遊びをする。（すべり台等）            ・草花遊びをする。            ・虫さがしをする。</p> <p>第3次 実践したことを自分なりに表現する活動</p> <p>・公園に行って遊んだこと、楽しかったこと</p>	<p>計画表            （共同作業）</p> <p>①健康で安全な生活            ②身近な人々との接し方。            ③公共物の利用            ④身近な自然との触れ合い。            ⑤季節の変化と生活とのかわり。</p>
<p>＜秋＞ 第1次 めあてに気付いて意識化する活動</p> <p>・秋の公園で楽しく遊ぶ計画をたてる。            ・6月に行ったところとどんなところが違っているか発見する。            意識化して実践する活動</p> <p>第2次 意識化して実践する活動</p> <p>・秋の公園で楽しく遊んだり観察したりする。</p> <p>第3次 実践したことを自分なりに表現する活動</p> <p>・秋の公園のまとめをする。            ・夢の公園づくり（画用紙）            （折り紙など）</p> <p>・6月のころとの違いをまとめる。</p>	<p>（表現活動）</p> <p>（表現活動）</p> <p>（表現活動）</p>







⑦ 季節	自分の好きな木をみつけ、初夏に気づくことができる
⑥ 自然	草花、虫を見つけて遊ぶことができる
	遊び後片付けができる
	公園で見つけたことを絵や文に表現できる

用具等の後片付けをさせる





## V 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

「活動や体験を大切に、自然に親しむ子の育成」を目指して理論研究と授業実践を試みた。その成果や課題は①仮説②授業分析から次のようにまとめる。

仮説 生活科の学習において、自然や社会とのかかわりのできる活動や体験の場を組織すれば自立への基礎となる生活上必要な習慣や技能を身につける子が育つであろう。

- <成果> (1) 児童の実態(省略)から学校の近くの浦添大公園を学習の場、対象としたら初夏の公園に気付き生活科の趣旨をふまえた学習ができた。  
(2) 緑の木々、芝生、たんぽぽ等の草花やせみ、虫等に触れたり、観察したり自然に親しむことができた。  
(3) 活動後の全体清掃等、公共施設を大切に利用する心が育った。  
(4) 児童の望ましい「遊び」活動を多面的に取り入れることによって自然や環境とかわる児童の思いが深まり創造的な活動に広まっていくことが実践から確かめられた。

#### <授業分析から>

- (1) 生活科の授業づくりの①Tはどこにいるか ②Sは動いているか ③Wで活動しているかの3点が達成されて授業は成功であった。(教科指導員評より)  
(2) 幼小の関連から、体験したら思考しやすい、今まで気づけなかったことに気づいていく、うんと体験させよう等、公園での楽しみ方がわかったと思う、素晴らしい活動ができた。(教科指導員評より)  
(3) 地域とのかかわりと安全面から警察のパトロールも協力して頂きよかった。

#### <課題>

- (1) ティームティーチングを導入したが①援助のあり方 ②環境づくりなど望ましいティームティーチングのあり方を幼小連携において共同研究していくべきである。

おわりに新教科という歴史のない教科にチャレンジ精神で研究に取り組んだ。教科目標や内容分析、評価等から授業展開へと授業実践を試みたが教師の援助の場面(タイミング)ティームティーチングのあり方で考えさせる場面があり「うみの苦しさ」を経験した。今後は、この課題を現場で学年の研究としてとらえ、子どもたちが生き生き学習、楽しい学習になるよう工夫しながら努力していきたい。

最後になりましたが、この報告書のまとめにあたって指導して下さった与儀啓子教科指導員をはじめ、前田所長、諸見里係長、池田指導主事、研究員の先生方に厚くお礼申し上げます。

#### <<主な参考・引用文献>>

- |                             |                |
|-----------------------------|----------------|
| 「小学校指導書」(生活編)……………平成2年      | 文部省            |
| 「生活科の計画とその実践」……………1991.2.20 | 宇都宮大学教育学部附属小学校 |
| 「生活科に関する研究」……………1992.3      | 十勝教育研究所        |
| 「小学校学習指導要領」……………平成2年        | 文部省            |